

## 永代祠堂経に付かれた方にご案内

四月は境内の桜が満開です。桜の時期になると若かりし時の苦い思い出が去来します。

当時、仲間と桜を魚に酒宴に興じていた時、いつもお参りになる老いたご門徒が「桜がなぜ綺麗か分かる？」と問いかけてきました。虚を突かれ、返す言葉もなく沈黙していると、その方はこう言うのです。「桜は精一杯努力して美しくいはなを咲かせて人を喜ばす。そして、その成果を一瞬のうちに散らせて平然としている。その姿が美しいのだ」と言い放った。

桜にはそんな意思などないが、それを愛でる我々はいろいろな意味を気付かせてくれるのだと初めて知った。おそらく老婆は咲き誇り散つていく姿に自身の命の真意を感じ取ったのだろう。

娑婆には幾多の出会いがあります。しかし、別れのない出会いは一つもありません。あるとすれば仏との出会いです。娑婆での別れを縁に、そこからより深い命の営みに出会うのです。

「さよなら」とは仏縁です。私が仏願を抛り所にした新しい自分に巡り逢うことです。このような命の依って来たる由縁と行く末を自覚した自立的な生き方を菩提の道といえます。

**永代経法要**の営みは、この真実を一人でも多くの方々に気付いてほしい、という往生した先達の永代の思いに出会うことです。下記ご案内いたします。

## 亀山御坊永代経法要日程

四月十一日(土)・十二日(日)

午前七時半 晨朝勤行 本堂・蓮如堂

午後一時 永代経法要 本堂

導師 本徳寺 大谷昭仁師  
布教 浄専寺 藤岡良治師

お説経は、お勤めの後、蓮如堂で聴聞します。

## 蓮如忌法要のご案内

四月初旬、境内のサクラが満開になり、散つていきます。花命の短さを直視して永代経法要が勤まります。

ツツジが咲く頃、**五月十七日**には蓮如上人のご法要です。境内に梅檀の香りが漂う頃、仏さまのお徳を静かに感じながら、あらゆるもののお蔭を全身で頂き、たしかに仏縁にお会いください。

## 個別納骨壇利用のご案内

亀山本坊で自己管理型の納骨壇の利用が出来ます。ご相談の方は左記お問い合わせ下さい。

問合先・本徳寺寺務所・電話(235)0242

## 永代祠堂経の開闢について

納骨の際に個人の供養のために永代祠堂経を開闢される方がおられます。

永代経や祠堂経というお経があるわけではありません。故人の往生に向かい合い、縁のある個人が仏の願いに想いを致し、迷いの世界に仏願が永代に渡って相続されるよう本堂の維持に布施する尊行を永代祠堂経開闢と言います。

本徳寺ではこの祠堂経の扱いを、伝統的な作法に従って阿弥陀経一卷の読誦をもって修行します。勤行後に祠堂経開闢の趣旨を墨守して本堂の外陣懸奉いたし、毎朝の晨朝勤行の後で、お寺の続く限り阿弥陀経一卷が勤まります。

さて、このような営みは江戸時代から始まったようですが、その趣旨を深く理解している方は少ないようです。生前、仏縁をいただいて真実信心のお念仏を喜ばれた方が、その報恩謝徳の

想いを、縁ある相続者が布施行として顕される行為が永代祠堂経の真宗特有の仏事としてご理解いただければと思います。

先に浄土に往生された故人が後に続く縁者に相続してほしいのは、財産や地位や名誉ではありません。これらは必ず無に帰して行きます。迷いの世界で生死の苦しみに浮き沈みしながら、老・病・死の混迷を貫く信心の念仏こそ受け継いで欲しいのです。

お寺はその相続を娑婆濁世の真つ只中で実現出来る唯一の場なのです。お寺の本堂など資材は娑婆のものです。形あるものはかならず朽ちていくものです。後生の一大事を説く唯一の砦であるお寺が永代に渡つての維持運営されるよう、その一助になるようにと想いを懇念に願ったのが永代祠堂経開闢という布施行なのです。